

今月の特徴的事件として、米帝のリビア再攻撃、東京サミットにおける「対テロ」宣言の採択、五月初旬からのシリア非難とシリア・イスラエル戦緊張の高まり（サミットと連動している）、新しいキャンプ・デビッド経済攻勢としての「中東マーシャルプラン」のスタート、レバノンにおけるマロン派新主教任命によるクリスチヤン右翼の側の政攻勢態勢作り、そして、南部でのイスラエル、SLA戦の継続、激化

を挙げることができよう。以下に、特徴的事件のもつ意味をとらえて、敵の狙い、味方の闘いをとらえていきたい。権、領土を犯し、人民の自決権を許さない威嚇である。三段階では、

一 東京サミット—国家テロの合法化

五月四日からの東京サミットは、米帝の国家テロを追認した。三月に続き、四月一日にも、米帝は、進歩的民族主義国家リビアに爆撃を行った。戦後のヤルターポツダム体制の秩序を根底から否定する敵の一、軍事的・政治的・イデオロギー的に「対テロ」キャンペーンの率先

垂範をしてみせた。その名も、「エル・ドラド峡谷作戦」と銘うち、主權、領土を犯し、人民の自決権を許さない威嚇である。三段階では、

シリアとの対決強める米帝の国家テロ

一九八六年五月一〇日



第12号

発行 ウニタ書舗
東京都千代田区神田神保町1-52
TEL. (03) 291-5533
編集 J.R.A.
郵便振替 東京1-48443
三菱銀行神保町支店 当座9012656
会員制 年会費20000円

目次

シリアとの対決強める米帝の国家テロ	1
ゴルバチョフソ連共産党中央委員会書記長から	5
カダフィ大佐へのメッセージ（資料①）	5
米国はリビア攻撃はしたが、目的は達せなかつた（抄）（資料②）	5
イスラエルの西岸占領政策（資料③）	8
ソ連TVとのアサド大統領インタビュー（資料④）	12
ますます暴力に訴える日本の極左（資料⑤）	15
日本赤軍声明（資料⑥）	16
アルメニア人民虐殺71周年メッセージ（資料⑦）	16
反東京サミット行動委員会への連帯アピール（資料⑧）	17
経済力に見合う発言力を要求する経済大国日本（資料⑨）	18
激動の中東ドキュメント 1986年4月11日～5月10日	19

日帝は中東政策において、「親アラブ」的外交を展開してきたのだが、東京サミットにおいて、とうとう反帝進歩民族政権に対して「対テロ」の口実の許に敵対する立場を明らかにした。帝国主義の国家テロを正当化する立場に立った以上、アラブ人

資料①

ゴルバチョフソ連共産党中央委員会書記長からカダフィ大佐へのメッセージ

一九八六年四月一五日 プラウダ

ムアマル・カダフィ同志

リビア・ジャマヒリヤがここ数日直面した試練に対し、米帝国主義の強盗行為に対するリビア人民の対峙に、ソビエト指導部およびソビエト全民民を代表して、連帯の気持を表明します。そして、野蛮な米の爆撃の犠牲になられたりビアの方々、その悲劇的な死に対しても、追悼の意を表明します。

米国の新たな武装侵略に関する我が原則的立場は、ソビエト政府声明にはつきり示されています。たゞ次の点を加える必要があると思われますので、述べますと、

リビアをめぐる情勢の進展への脅威を阻止すべく、ソ連邦は多くの措置をとっています。友好国リビアに対する道義上、政治的・外交的・軍事的支援に加え（これらについては、貴君も御承知と思われます）、我々は、米国政府に対

単に地中海情勢のみならず世界情勢へも危険な結果を及ぼすであろうことを再三、まじめに警告しました。また、そうした出来事の進展はソ連－米関係にも否定的な波及効果を生むであろうと宣言しています。

世界の政治情勢を新たに悪化させまいとする我々の願望から、我々は米国に対し右のように呼びかけてはおりませんが、ワシントンは耳を貸しておきません。自らの帝国主義的野望を満足せんがために、米国は、再び何百万人という人々の運命を無責任にも弄んで、国際緊張を高めるばかりです。「国際テロリズム」と対決する戦士なりと宣言していますが、米国の指導者が現実に行つているのは、侵略的な「新たな一元支配確立」理論実践と、国家テロリズム政策展開でしかないのは、どうみても明らかであります。

リビアを武力で攻撃はしたものの米は目的を達することができませんでした。それどころか、リビア人民は、革命的指導者とさらに固く団結し、九月一日革命がかちとった進歩的成果をさらに守りぬき、国際レベルで反革路線を貫く意気込みを表明

ア・ジャマヒリヤをうち砕き、米に屈服せんとする企ては失敗し、おまけに、米国は新たな道義上、政治的敗北を背負いこんでしまったのです。

平和なりビア諸都市に対する米空軍の強盗的爆撃は、主権をもつアラブ国リビア・ジャマヒリヤに対する米国の侵略的陰謀を止めるよう要求しているソビエト人民の怒りと非難の的なのです。

我々は、国際政治面でも断固たる一步を踏み出しております。我々は米国政府に対し、冒険的な反リビア政策を即刻中止するよう再度要求し強く抗議しております。リビア爆撃に基地使用許可を出した英國政府に対する適正な表明を行いました。

加えて、リビア・ジャマヒリヤに対し活発な支援を行うよう、アラブおよび非同盟諸國の指導的な国々に呼びかけています。同朋的な社会主義諸国と、この方向で連携していくことは、他言を要しないでしょう。

我々の有効な連帯をカダフィ同志に、そして、全リビア国民に再確認し、リビアの防衛力強化という面で我がソ連邦は断固として責任を負うであろうことを、ここに明らかにさ

リビア・ジャマヒリヤにとって特別な重要案件であろうと考えております。

資料②

米国はリビア攻撃はしたが、目的は達せなかつた（抄）

一 米国によるリビア攻撃の目的と反響

レバノン政治評論家 モナハ・ソルハ

今回の攻撃では、引き金になつた理由なるものその他に、次のような理由があつたろう。第一に、中東における対米対イスラエル闘争で、アラブ諸国がソ連を友人としているわはで、ソ連の信用を破壊すること、「誰であろうと、対米闘争を担うにおいて、ソ連の力を借りようとしても、米が許さない」、この警告をアラブに与えたのだと言えよう。実際、中東、世界レベルで、米の本音がそつてきた。六七年には、ナセル（当時のエジプト大統領）が敗けたのは、一貫して、このように力で従わせる方式でアラブ政策展開を行つてきただといふ意見が圧倒的に強い。

一に対する経済的最後通牒のようなものである。協力すれば、即ちイスラエルの衛星国となるなら（形態はヨルダン・アラブ連邦か、ヨルダン・パレスチナ連邦になるか）、延命が許されるのだろう。「一方的自治」が、キャンプ・デービッドの「パレスチナ問題の解決」の枠内における、数年間の自治、その後は住民投票によって決定する「方式として出されている。経済的には、イスラエルの下請工場、農場、市場でしかなくなる」という仕組みである。イスラエルとしては、エルサレム全体をイスラエルと結合させ、PLOの分裂につけこみ、促進させ（これ自体、こうした西岸・ガザの再編という具体条件に、どう指導性を発揮するのか）といふ路線上の問題であるが、西岸・ガザの分解、ユダヤ化を促進させるもくろみの推進なのである。

実に表現されていることをみることができる。)

ヨルダンとの和解も進めていた。アサド大統領のヨルダン訪問は、その一環としてあつたのである。また、レバノン停戦についても、キリスト教反動勢力との対話ルートは常に開けてあつたが、「三者合意の精神を活かしたうえで、何らかの修正を加えるのは、レバノン主体が決める」と、柔軟な姿勢を見せている。反面、ユーゴスラビア訪問にみられるように、社会主義諸国との関係強化も進めている。原則を曲げない範囲で、柔軟な対応はするが、敵の攻撃に対しても受け立つ構えも明確に示している。

今後、米帝、イスラエルは、対シリヤ緊張を高めつつ、レバノン、ガルフでゆきぶりをかけ、対リビア軍事・経済封鎖を維持していくだろう。いわば、反帝民族政権を孤立させ、封鎖したうえで、個別撃破する戦術に出ている。このための口実が「対テロ」キャンペーン強化なのである。味方の側は、まず、現在の敵の攻勢局面の性質、つまり、民族主義政権に対する戦争宣言であること、これをよくつかむことが問われているだろう。敵は、彼らの「世界秩序」への屈服へ反帝勢力を変質させ、人

民・革命勢力の封じ込め)を夢想しているのだ。こうした局面にあつては、反帝勢力は、国家外交、革命政治、人民大衆の要求の位相の相違を認めつつ、敵の攻勢局面に対し、集中して対峙すること、共同して闘うぬくことが問われている。

八二年のイスラエルによるレバノン侵略から八四年二月の西ベイルート解放までの二年間、敵の攻勢を逆转させたのは、反米・反イスラエルによるレバノン・パレスチナ・シリリアの統一した闘いであった。帝国主義の側は、あの敗北を盛り返さんとして、なりふり構わぬ侵略行動に出でている。反帝勢力の側が、この攻勢に対する、統一しながらあらゆる戦略レベルの反撃を行う限り、味方の攻勢にと転化できよう。つまり、反帝勢力の統一した指導性発揮が、八四年二月の勝利の地平を守りぬくばかりか、アラブの国家外交を反帝平和攻勢へと包摂し、全局を反米陣地として形成しうるのである。この意味で、中東に限らず、アジア太平洋、アフリカ、ラテンアメリカ、ヨーロッパ、日本等、各地の反米闘争をさらに展開し、帝国主義諸国間の矛盾を突き、拡大していく闘いが問われているだろう。

レバノンが警戒すべきは、イスラエルからの攻撃である。または、イスラエル—シリア—レバノンという三つ巴か。私は、そうなる可能性が大きいと思う。

レバノンが警戒すべきは、イスラエルからの攻撃である。または、イスラエル—シリア—レバノンという三つ巴か。私は、そうなる可能性が大きいと思う。

キヤンプ戦争の展望（再）

「口 現在の膠着状況打開の展望
膠着状況には誰も満足していない
クリスチャンーアマル＝P.S.P.関係
に、流動性が出てきたと私は見て
いる。
たとえば、ジュンブラットは、「相
手にせず」としていたはずのマロン
派に対し、新主教就任祝いにレバノ
ン参謀長（ドルーズの職）があいさ
つに行つたが、反対しなかつた。ナ
ビーハ・ペリもシーア派のレバノン
軍将校がやはりあいさつに行くのを
止めなかつた。それに、二人とも、
とくにジュンブラットは、バチカン
・イニシアチブに対し敵意をみせて
いない。こうしてみると、三者合意
調印以前にあつた「勝つか、敗ける
か」式の対峙緊張が、やや余裕のあ
るもの、自分を客観的に捉えていく
余裕のようなものが、生じてゐるの
だらう。どんな政策、または解決策
であれ、成功させようと思つたら、
ジェマイエル、シャムーン、LFを
度外視してはやれないという現実か
ら問題を立てるようになつたとでも
言つべきだらう。また、ホベイカも
スンニ派も、やはり度外視できない

の相手とやる
ことなど

機解決に果す役割
まず、クリスチャントラストの新主教スザン・ルーヴィング博士は、宗派との対話の道も開いた。彼女は、この問題を「神の命」の問題と定義し、「神の命」を守るために、各宗派が協力して行動するべきであるとした。これにより、各宗派間での対話を促進する動きが出てこよう。

(ソ連は、レバノンからのイスラエル撤退、包括的和平を国際会議方式でかちとろうと提案しており、過去棄権してきた。今回は、投票し、資金援助も申し出ている。レークンはUNIFILへの資金凍結、駐留させない政策)

米が、UNIFIL駐留を止めさせ、政治的または軍事的に米の独壇場にしようとしている、ソ連は、こう分析したのだろう。ソ連は、レバノンに大きな力を持っているわけではないから、UNIFIL支援により、解決へむけたパートナーとして登場しようとするのだろう。そうすれば、米流解決を阻止できる。

世間には、ソ連はパートナーになることにより、他の国民の抱える問題解決に力を貸すが、米は、思い通りの解決策を押しつけるだけと映るようになる。これは、積極的な姿勢だと思う。

ただ、レバノン人自身が南部における米国の軍事解決を避けるために何らかの合意を作ること、これが成功の秘訣だと思う。日々、南部のセキュリティ措置如何でレバノン問題の解決がどうにでも転んでしまうと

アラブがナセル支援をやらなかつたからだということをアラブに教えようとした。"ソ連から武器を買いつけるのは結構。しかし、領土問題を解決したかつたら、米の言うことを聞くに限る"というようなことを言ったので、キッシンジャーは有名だし。

七三年の十月戦争直後、サダトは"我が軍、ソ連製兵器で武装し、スエズ渡河に成功せり"と宣言はしたが、実は、既に、米に頼るしかないと考えていたのだ。

第二には、アラブの團結破壊だ。

"政治的團結がないのだ、アラブには"、米はこれを言いたかったのである。副大統領のブッシュに到つては、アラブのリーダーは米の軍事行動を公には支持しないが、秘かに賛成しているとまで断言している。アラブの團結と統一に対する確信をゆるがそうというわけだ。

第三は、パレスチナの大義とアラブ国家の政策をつなぐ環を断つことこの環は、米－イスラエルにとって頭痛の種だから。この環こそがテロリズムそのもののかもしだれとも米は考え、この間政治・軍事展開をその環の破壊にむけて集中させていたエジプトとの友好関係があるのに、

エジプト機強制着陸を強行（アキレ・ラウロ号事件の後）したのも、その一例である。全ての価値、航空法など、歯牙にもかけぬやり方だ。今回の一例では、この環 자체を破壊するためのやり方がなりふり構わなくなつたことを示している。

アラブは、では、どう対応すべきなのか？アラブ諸国は、どのように受けとめているのだろうか？レーガンの警告にどう回答するつもりなのかに規定されるだろう。ソ連への依存を止めるか、アラブの統一がただの絵に画いた餅でしかないという風に反応するのか、パレスチナ人を見捨てて米が叩くままに放置するのか？

未だ、回答は出でていない。が、最近ソ連がアラブ進歩諸国、エジプトとさえ関係を強めているのは、周知の事実だ。こういう時に、アラブ諸国がソ連との関係を止めてしまうとしたら、驚きだ。

アラブ間の連帶という面では、リビア侵略があつたからといって、弱体化することもないだろう。アラブサミット招請の呼びかけがあり、UAEは、エジプトも招請すべきと暗に呼びかけている。レバノンの大衆レベルでも、アラブ團結強化を訴え

る声が強い。最近出席した集会で全参加者が異口同音に、アラブサン・シリアは、アラファート指揮下のPLOとの交渉を進めており、やがて王者の共同体制が再建されるかもしれないとの説がある。両者とも、自分が恫喝されているとなれば、歩みを止めて、この恫喝をはねのけようとするだろう。これは、シリアー・パレスチナ関係に限らず、他のアラブ国にとっても同じだ。どの国も、パレオチナ人との間に深刻な（敵対）関係があるわけではないのだから。だから、それほどたいしたことでもないのに、わざわざ特別な政治、または軍事上の自分のスタイルにアラブがこだわりさえしなければ、一ガンの狙いは、肩すかしをくらうことになつていくだらう。アラブ、そしてパレスチナの大義を実現するのにむけてどういう政治的・軍事体制をとるかという方向で考えていくべき（今回の米の攻撃の結果の一として、当然考えなくてはならないのが）、米国が思いもしなかつた方向に、積極的に発展させていけよう。

二 レバノンでは、外国人人質三名の殺害、英大使公邸へのロケット砲攻撃があつたが、これらは米への報復だらうか？

ありえぬことではない。可能性としてみておかねばならない。

報復というなら、レーガンがレバノンから第六艦隊、海兵隊を引かざるをえなかつたあの敗北を思い出してほしい。米の国内世論の圧力から敗け戦の様相を呈しつつ、撤退していった。これは、米の国民的自尊心をひどく傷つけた。リビアへの爆撃は、いずれレバノンへも仕返しをしようと思つてゐるのと同じく、この敗北が誘因になつたかもしれない。

米がレバノンに對しても軍事攻撃をかけてくるだろうか？ リビアとレバノンとの相違は、明確に反米を掲げる国家権力としてレバノンが成立していない点だ。リビアは、国家として、反レトガンだ。レバノンには、国家権力として反米政策展開をする実体がない。今まで、国家との弱點だつたが、それが幸いすると、いう稀な事例だ。レバノンの強みはレバノンの弱さにありと称されてきたが、今回、それが該当するようで

問　イスラエルの支配者はゴラン問題で緊張を煽り、対シリア戦間近とく、彼らのは、侵略政策です。したがって、私たちは、それとの対峙しかねないわけです。侵略理念は、結局勝つことはありませんし、自らの願望を達成したいがために生き、闘う人民、そして人民の大義が終局的勝利を得るであろう、私たちは固くそう信じております。

問 シリアはレバノン内戦終結、米
－イスラエルのレバノンへの干渉阻
止に力を入れてきましたが、未だ繁
張継続という状況です。レバノンで
の平和と安全、そして国民和解達成
の支障はどこにあるというお考えで
しょうか？

国は何らかの障害物を作ることができましよう。しかし、私たちは、まだ時間がかかるにもせよ、国民和解をかちとつていかねばならないと考えております。シリアの援助を受けてもこの国民和解が成立しないならば、誰も国民和解を成立させることはできないでしよう。シリアの援助を受けても内戦停止がかちとれないとしたら、内戦は続くしかないでしよう。国民和解へのシリアの援助がどんなに長くかかるうと、レバノンの損失がどんなに大きかろうと、レ

答 確かに、ソ連邦の考えは、はっきりしておりますし、よく知られていると思います。アラブのフェーズ首脳会議提案とも一致するものですね。主要な問題は、米一イスラエルが、アラブ一ソ連邦の和平提案を拒否していることがあります。ソ連邦、米国も参加した国連主催の国際会議に

・軍事圧力が強くなるております
この（シリア、リビア敵視）理論と
目的はどのようなものでしようか？

いう宣伝をしておりますね。この書
しの目的は?

脱出する唯一の道は 国民和解にあるということを、私たちは一貫して考えてきたものです。そして、米－イスラエルが一貫して邪魔してきた

ハノン人同士の殺戮が続いている
という現実に他の人々が直面し、シ
リアがこの危機解決に援助せねばな
らないという現実を直視すること、

1986年6月30日 第12号 月刊 中東レポート

シ連合とのアサヒ
大統領インタヴュ

問 第二十七回 ソ連共産党大会で、大量破壊兵器廃絶、世界核戦争阻止、世界平和と安全の維持のために包括的プランを採択しました。このプランに対するお考えをお聞かせ下さい。

答 重要であり、包括的であり、かく政治・経済・軍事・人道面での諸原則を網羅するこのプランをよく学習させて頂きました。これらの諸原則が世界中の国々の利益と願望を深く反映させたものであると考えます。これが平和と安全を維持し、結果的に人々の生活条件を向上させていくものになるので、国際世論はこれを支持するようになるでしょう。このプランは包括的であり、価値あるも

防衛、新しい戦争の勃発の可能性を阻止せんと、多くの機会に指導性を發揮しています。しかも、単独で自ら実践するなど。たとえば、ソ連は数年前にドイツ民主共和国から兵器の若干撤収、ミサイル解体などしていますね。ソ連がそうしたのは、善意を行動で再確認し、世界平和を強力な原則に沿って打ちたてる、そうして他の勢力にもソ連に統いて欲しかったからだと思います。また核実験を一定期間凍結し、その延長にも踏み切っています。

ソ連共産党書記長ミハイル・ゴルバチヨフ氏は、数日前ドイツ民主共和国に滞在しておられましたが、その際、軍縮、核兵器生産削減、核兵器削減、将来の戦争

リビアの側は、ヨーロッパで起こったテロリスト行為に何ら関与せずと、何度も表明しているのです。潔白だとするリビアの主張を無視するとしても、他の国を処断し、他の民族・国家との紛争を実力で片づける権利が米国にあるものではありますまい。もし、国際的な行動を、そうした行為に對して採る必要があるなら、處罰方法・原則を決めるための国際的な機関があります。その国がどんな力を持っていようとも、自分の想点、感じ方でもって、他の国を処断する権利があるなどというのは、認め難く、かつ非論理的です。そういう類の論理は、後進的なものでしす。現代社会では、受け入れられませんから、ソ連邦が示した幾多のですから、ソ連邦が示した幾多の

かちとれるものではありません。また、人民、国家としての自由を放棄することでもありません。

逆に、私たちは、自らが選択した生き方に忠実であらねばなりません。私たちは、自らが決定を下す、自らの独立を守る自由をあくまで譲つてはなりませんし、他者の願望に左右されず、自分の願うような生き方を追求せねばなりません。そうした意味で、植民地支配のくびきを碎き、政治的自由と社会進歩達成へむけた建国過程にあるシリアル、または第三世界のどの国をも、米は思うままにすることはできないでしょう。

ざしたが、公募日に閉鎖されてしまった。こうして、西岸・ガザに踏みとどまつた人民、民族ブルジョアジーは、独自の経済圏建設の道を奪われている。

問 米国の方は、ソ連邦の最近の提案を拒否し、国際関係を煽動しておりますし、核実験継続、リビアへの長期に亘る闘いが必要になるのです。

阻止へむけたソ連の強い要望を表現する提案をされました。残念ながら、国際政治の舞台で見る限り、また米の発言から判断する限り、米の方は、この動きに対し好意的な反応をしておりません。逆に、世界の緊張を高め、あちこちで侵略を重ねていま
和平安定のための提議をされましたが、それは（主に小さな国家）への侵略の継続と、和平を脅かしているのは、米国なのです。

く聞い、国の政治、経済、文化生活上有効な役割を果しうる高い組織的・文化的水準に達しているのです。周知の事実となつておりますが、労働者に関連する全て、そして工場等は、労働者の大会で決定されております。一方、農業、農民に関連することは、農民大会が決定していくのです。私たちの視点から見ましてこれは、大変重要な前進と言えます。もちろん、ベース党は、津々浦々全ての村落に活動しています。広範な基盤に立脚しております、健全な理知的土台をもつよく組織された党であります。私たちは、進歩民族戦線とみなされてしまつて、そこに全ての民族的・進歩的政党が入っています。これは、第三世界の傑出した実験となりました。私たちは、成る程をさらに結晶させ、我が国の前進から教訓を引き出しつつ、この実験を進めていこうとしているのです。人民の潜在力、可能性を、最も重要なやり方で、つまり、國の人民的進歩勢力間の協力を維持していく確固たるかつ有効な方式をみつけ出すこと、こういうやり方で引き出し、まとめていく可能性の追求ですね。とくに、その国が、侵略に直面し、中東の現状のように、外国勢力が侵

活問題となります。
シリアのかちとった成果を、ここで全面展開するのは、時間的にも難しいので、これくらいにさせて頂きましょう。

資料⑤
ますます暴力に訴える
日本の極左
ニューヨーク・タイムズ クラ
イド・ハバマン記者（東京発）
ヘラルド・トリビューン 五月九日

比較的平穏な事が長く続いた後で、ここ数年は、日本の極左集団が、ますます暴力、治安紊乱戦術を探るようになってきている。しかし、だいたい、標的は財産が主で、人間を狙つたものである。これは、殺害ではなく、当局の面子をつぶすことを狙つたものだ。

こうした急進派は、日本を繁栄させた技術力に依拠して、攻撃後、うまく撤退する実力をつけてきている。彼らは、国際テロリスト集団、またはゲリラ運動との直接的なつながりはないようだ。

唯一の例外は、セキグン（日本赤軍）である。この組織は、少人数である。七七年九月日本航空機乗っ取り以来、表立った活動はしていない。日本赤軍の指導者たちは、レバノン東部のベカ一峡谷に住んでいるとの事は、メンバーの一人、岡本

日本の極左

資料五

日本の極左

ニューヨーク・タイムズ ク
イド・ハバマン記者（東京発）

ヘラルド・トリビューン 五月九

比較的立派な時間が長く続いた

ます暴力、治安紊乱戦術を採
用なつて居ている。しかし、

い、標的は財産が主で、人間

たものである。これは、殺害

たものだ。

こうした急進派は、日本を繁た技術力に依拠して、攻撃後

く撤退する実力をつけてきて

ケリラ運動との直接的つながりはない。

い ようだ。

（）である。この組織は、少人

る。七七年九月日本航空機乗
以来、表立った活動はしてい

本赤軍の指導者たちは、レバ

部のヘカーニ峠谷に住んでいる。」
れている。メンバーの一人、

侵略国であり、アラブの領土を占領し、何百万人というアラブ人を追放しているのですよ、こういう事実、そして多くの客観的な理由はおいて米国も参加せねばならない、こう私たちには主張しています。ところが、米は、ソ連邦の参加を拒否するというわけです。無制限の侵略的意図があつて、米、イスラエルとも和平実現に乘気でないのか、私たちは、そう考えています。

平和実現過程は、保証が必要であることは、よく知られております。イスラエル偏重の米にとって、イスラエルびいきである以上、そうした保証を与えることは困難であり、ありえないことです。ソ連邦の参加ということは、和平への幾多の保証を与えてくれるという意味ですが、どうも、彼らは、そういう保証は不要でした。がって、ソ連邦の参加拒否という考えに立っているのでしょう。平和実現過程には、目的と物質的土台

問 シリアーソ連友好協力条約に調印なさいましたが、同条約は現実にはどのように適用され、両国の伝統的関係拡大で同条約が果した役割をどう評価されますか？

答 シリアーソ連関係は、現実には長年の経験の蓄積です。そして、両国が結んだ友好協力条約は、そうした関係の強化にむけたものであり、そのための明確かつ確固たる礎ともなるものです。明らかに、同条約は、両国の友好・協力関係を発展させております。現在、両国関係は多岐にわたりており、政治、経済、文化、そしてほとんど全ての分野を網羅しています。

しかし、私たちは、さらに協力を進め、現在の友好を進めていくとされています。その発展の方向は、同条約の原則と指針に沿うものです。さらに、両国関係は、力強く、かつ

答 植民地支配から脱し、衛星国にならないことを宣言した国の草分けとして、シリアは有名です。つまりあれこれと多くの名称下、第三世界諸国は植民地主義的重荷を負いこまされてきたのですが、そういう第三世界諸国の中でも解放、完全独立をかちとった最初の国の一つなのであります。以来、シリア人民は、政治的解放と社会進歩実現のために闘い続けてきました。植民地主義的条約に抵抗してきたのです。現在もそうですが、バグダッド条約暴露・解体に重要な役割を果しましたし、五〇年代初期、中東で初めて社会主義諸国からの武器輸入に踏み切り、欧米武器輸出独占をうち破つたりもしました。

文化、経済、その他の分野で大きな進歩を遂げました。経済レベルでは現在の中東情勢の実情から、とくに侵略との対峙、さらに世界的な経済安全問題の進展から、大きな重荷があるにはありますが、長足の進歩を遂げています。文化面でも、文化施設、文化的催物、学校、研究所、大学、学生数、専門家数など、第三世界の中でもトップクラスに入るものと考えています。重要な点は、シリア内部に、人民組織を建設したことにあると思います。現在、こうした人民諸組織が、当然果すべき有効な役割を果すすべく、当たり前の位置についています。どういうものがあるのかと申しますと、労働総同盟（GFTU）、農民総同盟（GFP）、革命的青年同盟（RYU）、教員組合（TU）、婦人総同盟（GFW）、シリアル全国学生同盟（NUS）などです。これらの諸組織は、自己、および人民の利益獲得にむけて力強く

で世界中の被抑圧人民にとって、帝国主義とその同盟者が共通の敵であるということを暴露するだけである。

今年、日本では、米帝の仲間反動中曾根政府は、SDIへの参加、日米安保条約による軍事戦略、天皇在位六十周年式典、先進工業国第七回サミットの東京開催などにより完全な軍國主義化の道を邁進していくようとしている。日本の天皇ヒロヒトは第二次世界大戦でアジア人民二〇〇〇万人を虐殺した天皇の軍隊の大戦犯である。日本人民のみならず、全アラブ人民は、この事実をいつまでも覚えており、帝国主義の延命の陰謀と闘い続けるだろう。

同志、友人の皆さん。

共通の敵に対し、共に闘うアルメニア人民の皆さんに、一九七五年のハゴ・ファゴビアン同志の武装闘争を機に誕生し、そして今日に到るまでアルメニア愛国志士の方々が人民解放闘争として組織してきたALALA建軍十一周年の祝辞を述べます。

最後になりましたが、日本赤軍は今日、ギリシア、キプロスの領土侵略を狙う反動トルコ政権に対し闘っておられるギリシア人民の皆様に

も、支持表明します。そして、世界中の被抑圧人民の全戦士の皆さんに次のように、共に闘おうではないかと、提起します。

アルメニア人虐殺七十一年周年集会の成功万歳！

アルメニア解放へむけたアルメニア愛国闘争の中でのASAALA建軍十一周年万歳！

米の軍事戦略に領導されたNATOに対して闘うヨーロッパ人民の闘争万歳！

共通の敵米帝とその同盟者共を打倒せよ！

世界の被抑圧人民の自由達成と、世界平和達成にむけ、連帯活動を前進させよう！

共に革命を！

反東京サミット行動委員会への連帯アピール

資料⑧

PFLPからのアピール

先進工業国の中東サミット開催に際し、我々PFLPは全世界の反帝反ファシズム、反人種差別主義、反シオニズム、反反動を掲げて闘う日本の諸君、および世界中のあらゆる

反東京サミット行動委員会
への連帯アピール

進歩勢力との熱い連帯をここに表明する。

今回、サミットを東京で開催するということは、第二次世界大戦で日本帝国主義が世界中の人民に対して犯した犯罪を葬り去らんとする帝国主義の企てを如実に示すものだ。こうした企ては、米帝、NATOの軍事冒険政策の下に帝国主義をさらに結束させるものとして、最近とみに強化されている。

サミット 자체は、世界の平和を愛する人民総体、そして人民が団結していくことに対する帝国主義がかけている攻撃の一環としてある。

したがって、日本帝国主義を帝国主義の戦争体制の中に組み込ませないこと、これは、あらゆる進歩勢力の任務である。あらゆる進歩勢力は、帝国主義を分裂させ、帝国主義が結束できないうちに攻撃をかけること、これは、全ての進歩勢力の任務であ

てレ こる敵ラヤ人族決の多在反チ 热連通

友人の諸君！
今日、中東において、我々パレスチナ革命は、反帝、反ソオニズム、反動闘争の主柱の一本である。現に、パレスチナ革命が直面している多くの不十分性があるうとも、我々の位置に変化はない。帰還、民族自権の行使、独立国家樹立という民衆の目標達成まで、我々パレスチナ民は、闘い続けるに違いない。キンシップ・デービッド、レーガンプロン、「自治」、アンマン合意と、が敵の側の解決案を出してきていいか、これらは必ず失敗するということを信じていてる。

我々の聞いにより、PLOは、パレスチナ人民の唯一合法の代表とし世界の人民の国際連帯万歳！

パレスチナ革命を担う我々の任務は、全世界の進歩勢力の任務の有機的な一部である。我々は、反帝の闘争に、帝国主義の手先共に対する闘いを断固として担うことを、ここに宣言する。我々は、帝国主義の核戦争能勢に対し、断固反対だ。我々は、ソ

てレ　こる敵ラヤ人族決の多在反チ　熱連通

友人の諸君！
今日、中東において、我々パレスチナ革命は、反帝、反ソオニズム、反動闘争の主柱の一本である。現に、パレスチナ革命が直面している多くの不十分性があるうとも、我々の位置に変化はない。帰還、民族自権の行使、独立国家樹立という民衆の目標達成まで、我々パレスチナ民は、闘い続けるに違いない。キンシップ・デービッド、レーガンプロン、「自治」、アンマン合意と、が敵の側の解決案を出してきていいか、これらは必ず失敗するということを信じていてる。

我々の闘いにより、PLOは、パレスチナ人民の唯一合法の代表として世界の人民の国際連帯万歳！

勤列車、地下鉄に若干の混乱と遅延を及ぼした。中核派は、この件についての責任を否定している。

中核派の勢力は、五〇〇〇人、「革命軍」二〇〇人とされている。この二〇年間くらい、中核派は、成田の東京国際空港反対（の闘争）で、ときおり暴力に訴えてきたことで知られている。過去、中核派は、四六人の死（うち何人かは警官であるが、だいたいは、対立党派のメンバー）に責任ありとみなされてきた。

日本警察庁長官のヤマダ・ヒデオが先月記者会見で言うには、急進派の七〇%は労働者であるが、そのほとんどは七〇年代後半の“徹底した極左”出身のことだ。

なぜ彼らが最近息をふき返したのかは明らかでない。活発に活動している、これだけが明らかである。警察庁発表では、八五年度のテロリスト事件は八五件であり、過去六年間最大であるし、八四年度の約二倍に増えたとのことだ。警察によれば、過去一年間で、急進派を九〇〇人逮捕したが、中核派メンバーは、五〇〇人にものぼるという。日本は証拠を重視する規定が厳しい分、赤坂バレス攻撃では、まだ誰も検束されていない。

中核派は、八五年一月二九日に治安紊乱能力を發揮してみせた。この時、国鉄の通信、信号幹線を切断し、東京一大阪間の鉄道を数時間ヒさせたのである。

この他に活発なのは、センキキウサンドウ（戦旗派）と、カクロウキョウ（革命的労働者協会）。日本には、極右も多くある。が、右翼もっぱら、東京都内をトラックでりながらラウドスピーカーで右翼の主張をがなり立てる方に集中しておる。暴力事件は起こしていない。警察は、サミット会議の会期中、右翼が攻撃をかけることはないと信じておるが、警備をゆめる様子はない。英皇太子夫妻は、今週、日本を公式訪問する予定である。

日本赤軍声明

マヨウ本邦は、回の警告翼とて、日本赤軍は、N A T O 諸国、とりわけサッチャーレ政府に対して警告する。『制裁』と言いくるめ、または「テロリスト国家」呼ばわりして、リビアや他の進歩的民族主義国家に対する米の侵略と共に働くことを止めよ、と。日本赤軍は、自らの主張を防衛のために闘うリビア人民の正當に、な「国際テロリスト」であることが自明だ。こうした攻撃の目的は、しっかりしている。帝国主義の親玉レーガン政権は、帝国主義として延々としていくために、リビア等のアラブの進歩的民族主義勢力の抹殺を企んでいるのだ。

したがつて、レーガンの野蛮な行動は、単にリビアとリビア人民に対するものではなく、アラブ人民の全て、そして世界中の平和を愛する人民の全てに対してかけたものなのである。

アハメニアノ民虐殺
七十一周年メッセージ

家テロリズムによる侵略を撃つあら
ゆる行動を支持する。
米の国家テロリズムを打倒せよ！
米の侵略と闘うアラブの進歩的、
民族的闘いを支持しよう！
世界中で反帝闘争を強化せよ！
～これは、トリポリ、ベンガジに対
する米の再爆撃（四月一五日）後、
ベカーから発された声明▽

我々DFLPは、皆さんに戦闘的な連帯のあいさつを送る。

このサミットは、悪化していく経済危機の解決にむけたものだ。だが、この経済危機とは、他ならぬ帝国主義共が、多国籍企業独占と産軍複合体の利益追求を、世界の人民、そして、世界の人民の経済的利益を踏みにじって強行してきた結果に他ならない。

この機を捉え、我々DFLPは、帝国主義の支配に抗して闘うパレスチナ人民の闘いと日本の進歩的勢力の闘いとの連帯の重要性を再び強調したい。

DFLP中央委員会

三 日本赤軍からのメッセージ
東京サミット粉碎を闘っている日本の人々、アラブの戦場から、熱い連帯のあいさつを送る。東京サミットは、帝国主義強盗集団たちの経済矛盾の調整のみならず、反共、反テロ」の名のもとに、ファッショ的な攻撃の正当化の場となるとしている。

アメリカ帝国主義が第六艦隊とい

ギリス基地を使って、リビアとりべアの人民に対して、公然と爆撃を行

つたことは、正に、国家テロリズムであり、現代のファシズムである。

それは、単にリビア一国に対する攻撃ではなく、アラブ諸国、そして全

ての進歩的、革命的諸国家人民に対する攻撃である。アメリカ帝国主義

に對する批判が高まるのではなく、逆に、侵略されたりビアに対する制

裁が行われる異常な事態の中で、東

京サミットは反「テロ」宣言を行お

うとしている。レーガンは、ASE

AN外相會議に出た後、サッチャーは、韓国を訪問して、全斗煥と共同を深めた後、東京サミットに集まるとしている。中曾根は、「国际國家」日本の地位を固めるべく、もう一方で天皇ヒロヒト在位六十周年を演出して、反動的中央集権化を計る

うとしている。「国际國家」日本と

は、経済力、技術力、そして、軍事

力の強化を基盤に反共反革命国際同

盟の頭目の一になるという意味で

ある。

皆さん
日本人民は、結束して、この「國際國家」化を阻止しよう。それが、アジア人民と世界人民に対する国際的義務である。

東京サミット粉碎！
日本—アメリカ帝国主義のアジア

日本は、大國間の諸會議に参加はしているものの、分不相應の発言力しか与えられない苦情を言っている。もっと発言力をよこせといふわけだ。経済力と不均衡な影響力しか行使できず、西側諸国ときたら、日本の忍耐、力量の限度外の要求を訴えている。国連、IMF、世銀で外交、運営権をもつとほしいのだそうだ。

昨年九月、先進工業国五カ国は、米ドル高、日本の膨大な貿易黒字は正をめざす条約を成立させた。以来、日本の側は、せっせと、日本の経済力を削って、合意を実行してきた。日本の高官連は、不均等発展している世界経済のゆがみを直す闘いの最前線で大奮闘しているつもりな

だ。
大戦後、西側諸国に対しても軍事力放棄を行ってきた以上、公に、民族主義を論じることは、日本では稀であった。しかし、大実業家連中こそ、日本經濟再建の大黒柱であつたし、やがては、西側がもつて早く、もつと大きく市場開放せよと間断なく迫るのに対し、不公平じやないかという思いをつのらせている。「大国としての責任上、多くの外交、運営権をもつとほしいのだ」とやがては、西側がもつと大きく市場開放せよと間断なく迫るのに対し、不公平じやないかという思いをつのらせていることをやれと要求された。それには、やっている。だが、発言権の方は、一向に大きくならない。本当の大國たるには、軍事力がないとだめなのだろうか？「匿名希望のある大企業家は、こう述べたものだ。なかなか微妙な問題ではある。しかし、統計上、日本のこの不満は、正しくもある。IMFでみると、割

侵略を許さない！

アジア—世界と日本の人民連帯、万歳！

資料⑨

経済力に見合う発言力を要求する経済大国日本

週刊ディリー・スター

四月第二週号

日本は、大國間の諸會議に参加はしているものの、分不相應の発言力しか与えられない苦情を言っている。もっと発言力をよこせといふわけだ。経済力と不均衡な影響力しか行使できず、西側諸国ときたら、日本の忍耐、力量の限度外の要求を訴えている。国連、IMF、世銀で外交、運営権をもつとほしいのだ

しあげられることについて、独自

路線をとる日本人顧問連は、日本政府の弱腰を批判している。IMF、世銀内の地位を高めたいとする日本に対して、欧米各国は、改革には時間がかかるものだと、日本人の専門家やスタッフはなかなかみつからないのだとか言つて（体よくかわして）いる。

昨年九月、先進工業国五カ国は、

米ドル高、日本の膨大な貿易黒字

は正をめざす条約を成立させた。以

来、日本の側は、せっせと、日本の

経済力を削って、合意を実行してき

た。日本の高官連は、不均等発展し

ている世界経済のゆがみを直す闘い

の最前線で大奮闘しているつもりな

だ。

日本人民は、結束して、この「國

際國家」化を阻止しよう。それが、

アジア人民と世界人民に対する国際的義務である。

東京サミット粉碎！
日本—アメリカ帝国主義のアジア

日本は、東京が会場となるのだ

が、ヨーロッパは、現EC議長国オランダまで出席させようとしている。

日本は反対を表明している。日本側の情報では、中曾根の一聲で、おさ

まつたのだそうだ。通産省のある局長は、米、英、西独、仏が組んで、IMF、世銀での日本の投票権拡大を阻止していると、不満。また、国連安保理常任理事国でないのも、日本にとって随分有効であろうに、と、東京の世銀出向の日本人は言う。

国連では、どうが？ 日本は米・ソに次いで最大の資金提供国である銀行家は、こう嘆息する、「重要な政策が現われるごとに、欧州各國は、意見を一つにしてくる。今のところ、彼らの方がやり手のようだ」。

政府がソ連や開発途上国から槍玉にあげられていることについて、独自

対米從属外交だとか、南アと貿易

しているとかで、国連の舞台で日本

は安保理の非常任理事国を五回つとめてきた。他の一五九カ国の中

に次いで最大の資金提供国である

銀行家は、こう嘆息する、「重要な

政策が現われるごとに、欧州各國

は、意見を一つにしてくる。今のと

ころ、彼らの方がやり手のようだ」。

この人が言うには、亞サハラ開発資

金を出させるよう、ヨーロッパ諸国

は、声を一つにして要求し、要求を

通したのだそうだ。

駐東京のヨーロッパ外交官によれば、毎年のサミットに英、西独、仏、伊とヨーロッパ四国が出席するのも、日本にとっては面白くないことだとか。今年は、東京が会場となるのだ

が、ヨーロッパは、現EC議長国オランダまで出席させようとしている。

日本は反対を表明している。日本側の情報では、中曾根の一聲で、おさ

まつたのだそうだ。通産省のある局長は、米、英、西独、仏が組んで、IMF、世銀での日本の投票権拡大を阻止していると、不満。また、国連安保理常任理事国でないのも、日本にとって随分有効であろうに、と、東

京の世銀出向の日本人は言う。

世銀では、三一七五名の専門家を動かしているが、日本からは五一名のみ。米国は八〇三人、英国は三四〇人を出している。日本は、世銀出資では、米国に次いでおり、世銀貸し出しの二〇%を担当しているといふ。独自の経済発展を経験してきた日本の手腕が欧米の銀行哲学にとって随分有効であろうに、と、東京の世銀出向の日本人は言う。

国連では、どうが？ 日本は米・ソに次いで最大の資金提供国である

銀行家は、意見を一つにしてくる。今のところ、彼らの方がやり手のようだ」。

この人が言うには、亞サハラ開発資

金を出させるよう、ヨーロッパ諸国

は、声を一つにして要求し、要求を

通したのだそうだ。

駐東京のヨーロッパ外交官によれば、毎年のサミットに英、西独、仏、伊とヨーロッパ四国が出席するのも、日本にとっては面白くないことだと

か。今年は、東京が会場となるのだ

が、ヨーロッパは、現EC議長国オランダまで出席させようとしている。

日本は反対を表明している。日本側の情報では、中曾根の一聲で、おさ

まつたのだそうだ。通産省のある局長は、米、英、西独、仏が組んで、IMF、世銀での日本の投票権拡大を阻止していると、不満。また、国連安保理常任理事国でないのも、日本にとって随分有効であろうに、と、東

京の世銀出向の日本人は言う。

世銀では、三一七五名の専門家を動かしているが、日本からは五一名のみ。米国は八〇三人、英国は三四〇人を出している。日本は、世銀出

資では、米国に次いでおり、世銀貸し出しの二〇%を担当しているといふ。独自の経済発展を経験してきた日本の手腕が欧米の銀行哲学にとって随分有効であろうに、と、東京の世銀出向の日本人は言う。

国連では、どうが？ 日本は米・ソに次いで最大の資金提供国である

銀行家は、意見を一つにしてくる。今のところ、彼らの方がやり手のようだ」。

この人が言うには、亞サハラ開発資

金を出させるよう、ヨーロッパ諸国

は、声を一つにして要求し、要求を

通したのだそうだ。

駐東京のヨーロッパ外交官によれば、毎年のサミットに英、西独、仏、伊とヨーロッパ四国が出席するのも、日本にとっては面白くないことだと

か。今年は、東京が会場となるのだ

が、ヨーロッパは、現EC議長国オランダまで出席させようとしている。

日本は反対を表明している。日本側の情報では、中曾根の一聲で、おさ

まつたのだそうだ。通産省のある局長は、米、英、西独、仏が組んで、IMF、世銀での日本の投票権拡大を阻止していると、不満。また、国連安保理常任理事国でないのも、日本にとって随分有効であろうに、と、東

京の世銀出向の日本人は言う。

世銀では、三一七五名の専門家を動かしているが、日本からは五一名のみ。米国は八〇三人、英国は三四〇人を出している。日本は、世銀出

資では、米国に次いでおり、世銀貸し出しの二〇%を担当しているといふ。独自の経済発展を経験してきた日本の手腕が欧米の銀行哲学にとって随分有効であろうに、と、東京の世銀出向の日本人は言う。

国連では、どうが？ 日本は米・ソに次いで最大の資金提供国である

銀行家は、意見を一つにしてくる。今のところ、彼らの方がやり手のようだ」。

この人が言うには、亞サハラ開発資

金を出させるよう、ヨーロッパ諸国

は、声を一つにして要求し、要求を

通したのだそうだ。

駐東京のヨーロッパ外交官によれば、毎年のサミットに英、西独、仏、伊とヨーロッпа四国が出席するのも、日本にとっては面白くすこと

だ」と語る。

世銀では、三一七五名の専門家を動かしているが、日本からは五一名のみ。米国は八〇三人、英國は三四〇人を出している。日本は、世銀出

資では、米国に次いでおり、世銀貸し出しの二〇%を担当しているといふ。独自の経済発展を経験してきた日本の手腕が欧米の銀行哲学にとって随分有効であろうに、と、東京の世銀出向の日本人は言う。

国連では、どうが？ 日本は米・ソに次いで最大の資金提供国である

銀行家は、意見を一つにしてくる。今のところ、彼らの方がやり手のようだ」。

この人が言うには、亞サハラ開発資

金を出させるよう、ヨーロッパ諸国

は、声を一つにして要求し、要求を

通したのだそうだ。

駐東京のヨーロッパ外交官によれば、毎年のサミットに英、西独、仏、伊とヨーロッパ四国が出席するのも、日本にとっては面白くこと

だ」と語る。

世銀では、三一七五名の専門家を動かしているが、日本からは五一名のみ。米国は八〇三人、英國は三四〇人を出している。日本は、世銀出

資では、米国に次いでおり、世銀貸し出しの二〇%を担当しているといふ。独自の経済発展を経験してきた日本の手腕が欧米の銀行哲学にとって随分有効であろうに、と、東京の世銀出向の日本人は言う。

国連では、どうが？ 日本は米・ソに次いで最大の資金提供国である

銀行家は、意見を一つにしてくる。今のところ、彼らの方がやり手のようだ」。

この人が言うには、亞サハラ開発資

金を出させるよう、ヨーロッパ諸国

は、声を一つにして要求し、要求を

通したのだそうだ。

駐東京のヨーロッパ外交官によれば、毎年のサミットに英、西独、仏、伊とヨーロッパ四国が出席するのも、日本にとっては面白くこと

だ」と語る。

世銀では、三一七五名の専門家を動かしているが、日本からは五一名のみ。米国は八〇三人、英國は三四〇人を出している。日本は、世銀出

資では、米国に次いでおり、世銀貸し出しの二〇%を担当しているといふ。独自の経済発展を経験してきた日本の手腕が欧米の銀行哲学にとって随分有効であろうに、と、東京の世銀出向の日本人は言う。

国連では、どうが？ 日本は米・ソに次いで最大の資金提供国である

銀行家は、意見を一つにしてくる。今のところ、彼らの方がやり手のようだ」。

この人が言うには、亞サハラ開発資

金を出させるよう、ヨーロッパ諸国

は、声を一つにして要求し、要求を

通したのだそうだ。

駐東京のヨーロッパ外交官によれば、毎年のサミットに英、西独、仏、伊とヨーロッパ四国が出席するのも、日本にとっては面白くこと

だ」と語る。

世銀では、三一七五名の専門家を動かしているが、日本からは五一名のみ。米国は八〇三人、英國は三四〇人を出している。日本は、世銀出

資では、米国に次いでおり、世銀貸し出しの二〇%を担当しているといふ。独自の経済発展を経験してきた日本の手腕が欧米の銀行哲学にとって随分有効であろうに、と、東京の世銀出向の日本人は言う。

国連では、どうが？ 日本は米・ソに次いで最大の資金提供国である

銀行家は、意見を一つにしてくる。今のところ、彼らの方がやり手のようだ」。

この人が言うには、亞サハラ開発資

金を出させるよう、ヨーロッパ諸国

は、声を一つにして要求し、要求を

通したのだそうだ。

駐東京のヨーロッパ外交官によれば、毎年のサミットに英、西独、仏、伊とヨーロッパ四国が出席するのも、日本にとっては面白くこと

だ」と語る。

世銀では、三一七五名の専門家を動かしているが、日本からは五一名のみ。米国は八〇三人、英國は三四〇人を出している。日本は、世銀出

資では、米国に次いでおり、世銀貸し出しの二〇%を担当しているといふ。独自の経済発展を経験してきた日本の手腕が欧米の銀行哲学にとって随分有効であろうに、と、東京の世銀出向の日本人は言う。

国連では、どうが？ 日本は米・ソに次いで最大の資金提供国である

銀行家は、意見を一つにしてくる。今のところ、彼らの方がやり手のようだ」。

この人が言うには、亞サハラ開発資

金を出させるよう、ヨーロッパ諸国

は、声を一つにして要求し、要求を

通したのだそうだ。

駐東京のヨーロッパ外交官によれば、毎年のサミットに英、西独、仏、伊とヨーロッパ四国が出席するのも、日本にとっては面白くこと

だ」と語る。

世銀では、三一七五名の専門家を動かしているが、日本からは五一名のみ。米国は八〇三人、英國は三四〇人を出している。日本は、世銀出

</

- ・ イラン・リビア・シリア第四回三
国會議
- ①米の国連加盟権剥奪を国連に提案
- ②アラブ諸国に対し、対米経済・軍事・外交ボイコットの呼びかけ。
- ・ スーダン
- ハルツーム米大使館通信技術員が夜、狙撃され重傷。ケニアへ輸送されるとの噂あるも、実際はサウジに運ばれる見込み。
- ・ キューバ政府
- 国際法慣行と原則の違反、平和共存の原則無視。
- ・ ソ連
- 中東情勢を緊張させた。
- ・ 中国
- ①五月予定の第二回ソ米外相会談中止発表。
- ②ゴルバチヨフソ連共産党書記長からカダフィ大佐へ連帯メッセージ
- ・ パレスチナ諸組織（ダマスカス）
- ・ 英・米を処断すべし
- アラブ連盟のクレイビ会長「前例なきこと」
- ・ シヤミル談話　「歐州は、未だ米のようないく處に立たぬ。」
- ・ イスラエル

- ・英
　　“これは、自己防衛である。困難ではあったが、決断した”サッチャヤー
- ・野党側は、サッチャヤー糾弾。
- ・E C
- ・議長国オランダ“双方への自省求めたばかり。これは、いきなり横つ面を張られたようなもの”ギリシア、緊急外相会議を要請。
- ・日本
- ①横田基地に、ロケット砲攻撃。
- ②第一〇回ソ日経済協力委員会、干スクワでスタート。一七日まで。
- 四月一六日(水)
- ・米帝国家テロ
- ①米国務省がソ連非難
　　リビアにSAMミサイル供与し、テロリズムを増長している。
- ②スー丹の駐米大使召還。
- ・反米デモ
- ハルツーム(スー丹)一万
　　チュニス(チュニジア)二〇〇〇
　　ダッカ(バングラデシュ)二〇〇〇
　　パキスタン、ヨルダン、ベイルート、カイロ、ニューデリー、ベルリンなどでも、反米デモ。

- ・ 東京でも、パレスチナ人民の鬨いに連帶する首都圏労働者の会、日本反帝戦線、東洋大反戦行動委が米大使館に緊急弾劾行動。
- ・ 夜、カダフィ大佐、TV出演し、負傷、クーデター失脚説、見事に打ち破る。
- ・ 伊、スペインに対し、米軍との共同中止するよう、警告。子供を虐殺した殺人犯としてサッチャー処断を主張。米帝に對しては、「侵略の攻撃目標は達成されず。パレスチナ解放まで、支援は断固堅持する」と宣言。
- ・ 英議会で元首相のヒーリー（保守党）、キヤラハン（労働党）がサッチャヤー批判。
- ・ “英國国民は、二度とサッチャヤーの指揮に従わないだろう。力で解決するのは野蛮であり、しかも有効でないから”
- ・ これに対し、サッチャヤーはリビアの「テロリズム援助の確証」を列挙し、I.R.A、P.L.O諸組織援助非難のうえ、米軍との共同合理化議会、賛否両論で騒然。
- ・ プラウダ
- ・ N A T O諸国、とくに英は、米のリビア爆撃の責任の一端を負う。

- ・ インド
非同盟諸国（一〇一カ国）外相会議ストレート。ガンジー首相は、今非同盟諸国のリビア支持表明。
- ・ 米帝
ニカラグア白軍への一億ドル援助法案、下院が否決。
- ・ イスラエル
タヒヤ党大会で、举国一致内閣の公約たる一三のセツルメント建設を要求。
- ・ 西岸
① ナブルス市のゼーレルゼイトイ大で一〇〇人の学生が反イスラエルデモパレスチナ旗を掲げ、アラファトの写真かづぐ。
② ラマッラー近くのアルビラで反イスラエル闘争。
③ 東エルサレムで西独人観光客、狙撃され軽傷。
- ・ ベイルート
イスラム解放戦線が、英國人人質一名処刑を通信社に通告。リビア攻撃に英が加担したので、それへの報復。

①匿名希望の米情報省筋
「リビア石油施設に働く米国市民
に対し、退避指揮出している」

②ブッシュ、ガルフ諸国訪問（四日
間）スタート。

・反帝勢力の反撃

①リビア外相、シリア訪問。シリア
副大統領、外相と各々個別会談。

②カイダ首相（レバノン）
米批判。いかなる代価を払つても
米と対決すべしと呼びかける。

③ヨルダンのアル・ライ紙
米はNATOを対リビア攻撃に引
きずむこもうとしているので、引
きこまれないようにすべきと警告

④シリア
外務省が、歐州各国大使招請、警
告。米の圧力に屈し、対リビア
戦に巻きこまれても止むを得ずと
する態度は、リビア、全アラブ地
域への恫喝であり、これを止めな
いと、今後アラブ諸国との関係悪
化につながる恐れあり”

・レバノン
南部レジスタンス
対イスラエル、SLA作戦三回。

一方、労働党閣僚とワイスマンはモダイを二度と藏相にしないことで合意（労働党は一〇月のシャシル政権スタート時、藏相ポストをとりたい意向）。

② 対イスラエルゲリラ戦
バス攻撃。負傷数名。近くの村々に外出禁止令。北部国境内にも、カチューシャ砲攻撃。

③ 外交
カナダ代表団と、航空協定調印。エル・アル航空、トロント乗り入れ。
一方、同代表団は、キャンプ・ビッグ支持と共に、西岸・ガザにパレスチナ人の祖国建設支持を表明。

西岸・ガザ

① オム・アル・ファフム（パレスチナ人の町）
イスラエル武器庫から武器略奪の件で、五〇人が逮捕される。

② タヒヤ党、六〇〇名がヘブロン近郊のセツルメントで党大会。「和平」の前提に、西岸・ガザのパレスチナ人五〇万人（キャンプ在住

- バチカン
ローマ教皇、史上初のシナゴーグ（ユダヤ教教会堂）訪問。ローマで。
 - ロン・ヤス会談。
- 四月一四日（月）
 - 米帝のリビア攻撃キャンペーン
 - ①米国特使（米国連大使）、欧帝工作。本日は、ミッテランと会談。
 - ②E C、双方に自重呼びかけるも、うち数カ国は、米帝支持。
 - ③マーフィーをイスラエルに派遣。
 - ④T W A、カイローアテネ便停止。
 - 味方の反撃
 - テヘランで、リビア、イラン、シリア三国外相会議。
 - イスラエル
 - 外交ヘルツォグ大統領、バチカンとの国交樹立希望を表明。スペイン初任大使、信任状提出。
 - シンガポール外相着。（ホテル崩壊事件後、両国関係急速に改善された。シンガポールは

・西岸・ガザ
ヘブロンでパレスチナ人学生デモ
四〇名が逮捕される。ピース・ナウ（
ダヤ人、パレスチナ人）がセツメント反対デモ。これに対し、ツルメントのキルヤト・アルバ
長などユダヤ人右翼が挑発、衝突。
四月一五日（火）
米帝、リビア爆撃。国家テロ発生
前回の爆撃との相違は、サッチャーが英国内米基地利用を許可。
レーガンは「本部、軍事・情報施設が目標」とするも、現地特派員からは「居住区がやられた」との報道あり。日本大使館も被害受
た。
リビアは一機を撃墜。また、被撃した他の米軍機一機は、スペインの米基地に緊急着陸。
各国の反応
・リビア
②伊のランペドゥサ島通信基地を知
請。
①伊のランペドゥサ島通信基地を知
復攻撃。

四名に削減要求。

③スペイン、リビア外交官三名、リビア市民八名追放。

④仮、地中海側に地対空ミサイル配備強化。

・ペルー

米大使館の外で、車爆弾。

・クライスキー外交

UAE訪問。米への自重を呼びかけ。

・タイ

南部で米領事館に爆弾(手榴弾?)。

・マレーシア

マレー商人協会、米国旗、ドルを焼き、反米の意志表示。

・イスラエル

①ペレス訪仏。シラクとの会談(仏原子炉購入交渉)で、イラクへも同じ原子炉を売るという仏提案拒否。

②八三年の銀行騒動調査委員会が報告書提出。三〇日以内に、イスラエル銀行など大銀行総裁の引責辞任勧告。

・西岸

①ナブルスのバラタキャンプの外出禁止令解除。

②イエシ・ガフル運動、西岸のアルブ村に対する弾圧に、軍予備役の抗議を呼びかける。

・米帝

対サウジミサイル売却、下院で否決される。レーガン、拒否権発動の見込み。

・アフガニスタン

イスラマバードからの反政府ゲリラ声明によると、戦略拠点ジャワール峡谷攻防戦で、政府軍が制圧する。反政府側は、兵站ルートを切断され、武器も大量に捕獲される。

・インド

パンジャブのシーカー学生組織、分裂。

・スチーナン

与党のウムマ党首、リビア、米両国との良好な関係作りを希望する発言(等距離外交示す)。

トルコ土地法改革し、外国人による不動産(土地)購入を解禁。国会では、首相批判の声、高まる。

・米帝国家テロ

EC内相会議(ハーベにて。米検事総長も参加)

英ハウ内相提案一、情報交換、第二回EC内相会議開催し、三、毎年二回定期内相会議を開催する。

②七一年来、一五年ぶりに駐モスク

四月二二日(火) レーニン生誕百周年

年

米帝国家テロ

①EC外相会議決定に沿い、続々とリビア制裁。デンマーク、スウェーデンは、リビア外交官全員追放。

英、二名のリビア人逮捕、追放。

ト訓練生)は、四月に、「決死闘争を担う」決意表明無線打電がテロリストとしての「確証」とされた。

②NATO、本日から演習。英駐留米軍F111、一〇〇機参加。

③ギリシアは、リビアのテロリスト活動確証なしを根拠に、EC外相決議守らぬと宣言。

④EC外相決定をレーガン、サッチャードが讃美。

米帝「対国家テロ退治に不可欠な協力を欧州から得た」

サッチャード「力に対しても、予防措置を」

スカラスヘ疎開させる。米も米国市民一〇人を東ベイルートへ疎開させれる。

⑤ノルウェーは、外交官二名をダマスカスへ疎開させる。

米帝「対国家テロ退治に不可欠な協力を欧州から得た」

サッチャード「力に対しても、予防措置を」

調印していない国は、中東マーシャルプランの恩恵を受けることはできぬ

ヤルプランの恩恵を受けることはできぬ

②対イスラエルゲリラ闘争

先週狙撃されて重傷のイスラエル人バス運転手、死亡。

火器使用の攻撃件数増加。ヨルダンからの密輸らしい。ヨルダン峡谷がゲリラ基地化しつつあり(イスラエルラジオの論評)。

ハイファ市長、イスラエル兵殺害容疑で、パレスチナ人二名を四月一九日に逮捕と発表。

火器使用の攻撃件数増加。ヨルダンからの密輸らしい。ヨルダン峡谷がゲリラ基地化しつつあり(イスラエルラジオの論評)。

四月二三日(水)

年

米帝国家テロ

①バーミュダ事件に、退役准将が含まれていたことについて、駐米イ

スラエル大使館、イスラエル戦争省局長が、「イスラエルとは無関係」を強調。

(二五億ドル相当の戦闘機、輸送機、対戦車ミサイル、砲兵隊用大砲等の武器をイランに密輸しようとしていた事件。バーミュダで、一七人が当局に逮捕されたが、うち三人がイスラエル人。イスラエル政府、アラブ諸国からの資金導入許可し、日々の行政をパレスチナ人が運営するよう指示。

イランで、准将は、兵器取引ライセンスを所有しており、軍の了承済みを主張している。)

一七人が当局に逮捕されたが、うち三人がイスラエル人。イスラエル政府、アラブ諸国からの資金導入許可し、日々の行政をパレスチナ人が運営するよう指示。

・リビア

・欧米ジャーナリスト、国外追放(未確認情報)。

・イスラエル

・イスラ

- ①南部戦線
イスラエル軍「セキュリティゾーン」に増援部隊派遣。SLAと協力して、村落攻撃数時間。ヘリも出動。
- ②メトントン戦線、ベイルートでも小競り合い。
- ③UNIFILの仮部隊撤収予定。
- ④ルーマニア訪問中の国会議長「三者合意支持は、レバノン国民大多数。レバノン問題解決促進は、イスラエルの撤収」と語る。
- ⑤仏シラク訪英。本日、サッチャード会談。
- ⑥イラク、イラクートルコパイプライン第二段階建設開始発表。八七年六月完成予定。
- ⑦スリランカ開会。
- ⑧一七年内閣初の民主選挙選出の議会、開会。
- ⑨カタール＝バーレーン紛争
- ⑩カタールが紛争中の暗礁の統制地帯化宣言。
- ⑪スワジランド
- ⑫新国王、戴冠式。アパルトヘイトとの闘争宣言行う。
- ⑬四月二九日（火）
- ⑭米帝国家テロ
⑮伊のクラクシ首相
「テロリズムが跋扈する限り、地中海に平和なし。されど、西側同盟国は平和解決の道を捨てるべからず」
- ⑯リビア
イラン外相がリビア訪問し、カダ・フィ・大佐と会談。
- ⑰アルジェリア
首相が大統領親書携え、アンカラ入り。
- ⑱四月三十日（水）
- ⑲米帝国家テロ
⑳仏前首相デュマ（社会党）
「テロリズムの根拠を解決せねば、根絶できぬ」
- ㉑シリア
①アサド大統領、西独のゲンシャ外相と、ユーロ会談。
- ㉒リビア
八六年度最大の政府対ゲリラ戦。
- ㉓将校詰所への攻撃。米大使公邸にダイナマイト攻撃。他にも一二カ所で爆弾攻撃。
- ㉔イスラエル
ガザでの「自治」拡大を発表。西岸でも、パレスチナ市町村の「自治」領域をふやす。
- ㉕チエルノブイリ原発事故について、ソ連が発表。帝国主義国、こそつて反ソ宣伝に出る。
- ㉖ヨルダン
ペレスの「ヨルダンとの静かな対話進行」発言に対し、仲介者を通してフセイン国王が「不快の念」をペレスのオフィスに通告。

- ㉗西独の緑の党が、西独内全原発閉鎖
- ㉘四月二九日（木）
- ㉙米帝国家テロ
㉚伊のクラクシ首相
「テロリズムが跋扈する限り、地中海に平和なし。されど、西側同盟国は平和解決の道を捨てるべからず」
- ㉛リビア
カタールが紛争中の暗礁の統制地帯化宣言。
- ㉜スワジランド
- ㉝新国王、戴冠式。アパルトヘイトとの闘争宣言行う。
- ㉞四月二九日（火）
- ㉟米帝国家テロ
㉟伊のクラクシ首相
「テロリズムが跋扈する限り、地中海に平和なし。されど、西側同盟国は平和解決の道を捨てるべからず」
- ㉟リビア
イラン外相がリビア訪問し、カダ・フィ・大佐と会談。
- ㉟アルジェリア
首相が大統領親書携え、アンカラ入り。
- ㉟四月三十日（水）
- ㉟米帝国家テロ
㉟仏前首相デュマ（社会党）
「テロリズムの根拠を解決せねば、根絶できぬ」
- ㉟シリア
①アサド大統領、西独のゲンシャ外相と、ユーロ会談。
- ㉟リビア
八六年度最大の政府対ゲリラ戦。
- ㉟将校詰所への攻撃。米大使公邸にダイナマイト攻撃。他にも一二カ所で爆弾攻撃。
- ㉟イスラエル
ガザでの「自治」拡大を発表。西岸でも、パレスチナ市町村の「自治」領域をふやす。
- ㉟チエルノブイリ原発事故について、ソ連が発表。帝国主義国、こそつて反ソ宣伝に出る。
- ㉟ヨルダン
ペレスの「ヨルダンとの静かな対話進行」発言に対し、仲介者を通してフセイン国王が「不快の念」をペレスのオフィスに通告。

- ㉟西独の緑の党が、西独内全原発閉鎖
- ㉟四月二九日（木）
- ㉟米帝国家テロ
㉟伊のクラクシ首相
「テロリズムが跋扈する限り、地中海に平和なし。されど、西側同盟国は平和解決の道を捨てるべからず」
- ㉟リビア
カタールが紛争中の暗礁の統制地帯化宣言。
- ㉟スワジランド
- ㉟新国王、戴冠式。アパルトヘイトとの闘争宣言行う。
- ㉟四月二九日（火）
- ㉟米帝国家テロ
㉟伊のクラクシ首相
「テロリズムが跋扈する限り、地中海に平和なし。されど、西側同盟国は平和解決の道を捨てるべからず」
- ㉟リビア
イラン外相がリビア訪問し、カダ・フィ・大佐と会談。
- ㉟アルジェリア
首相が大統領親書携え、アンカラ入り。
- ㉟四月三十日（水）
- ㉟米帝国家テロ
㉟仏前首相デュマ（社会党）
「テロリズムの根拠を解決せねば、根絶できぬ」
- ㉟シリア
①アサド大統領、西独のゲンシャ外相と、ユーロ会談。
- ㉟リビア
八六年度最大の政府対ゲリラ戦。
- ㉟将校詰所への攻撃。米大使公邸にダイナマイト攻撃。他にも一二カ所で爆弾攻撃。
- ㉟イスラエル
ガザでの「自治」拡大を発表。西岸でも、パレスチナ市町村の「自治」領域をふやす。
- ㉟チエルノブイリ原発事故について、ソ連が発表。帝国主義国、こそつて反ソ宣伝に出る。
- ㉟ヨルダン
ペレスの「ヨルダンとの静かな対話進行」発言に対し、仲介者を通してフセイン国王が「不快の念」をペレスのオフィスに通告。

- ㉟西独の緑の党が、西独内全原発閉鎖
- ㉟四月二九日（木）
- ㉟米帝国家テロ
㉟伊のクラクシ首相
「テロリズムが跋扈する限り、地中海に平和なし。されど、西側同盟国は平和解決の道を捨てるべからず」
- ㉟リビア
カタールが紛争中の暗礁の統制地帯化宣言。
- ㉟スワジランド
- ㉟新国王、戴冠式。アパルトヘイトとの闘争宣言行う。
- ㉟四月二九日（火）
- ㉟米帝国家テロ
㉟伊のクラクシ首相
「テロリズムが跋扈する限り、地中海に平和なし。されど、西側同盟国は平和解決の道を捨てるべからず」
- ㉟リビア
イラン外相がリビア訪問し、カダ・フィ・大佐と会談。
- ㉟アルジェリア
首相が大統領親書携え、アンカラ入り。
- ㉟四月三十日（水）
- ㉟米帝国家テロ
㉟仏前首相デュマ（社会党）
「テロリズムの根拠を解決せねば、根絶できぬ」
- ㉟シリア
①アサド大統領、西独のゲンシャ外相と、ユーロ会談。
- ㉟リビア
八六年度最大の政府対ゲリラ戦。
- ㉟将校詰所への攻撃。米大使公邸にダイナマイト攻撃。他にも一二カ所で爆弾攻撃。
- ㉟イスラエル
ガザでの「自治」拡大を発表。西岸でも、パレスチナ市町村の「自治」領域をふやす。
- ㉟チエルノブイリ原発事故について、ソ連が発表。帝国主義国、こそつて反ソ宣伝に出る。
- ㉟ヨルダン
ペレスの「ヨルダンとの静かな対話進行」発言に対し、仲介者を通してフセイン国王が「不快の念」をペレスのオフィスに通告。

- ㉟西独の緑の党が、西独内全原発閉鎖
- ㉟四月二九日（木）
- ㉟米帝国家テロ
㉟伊のクラクシ首相
「テロリズムが跋扈する限り、地中海に平和なし。されど、西側同盟国は平和解決の道を捨てるべからず」
- ㉟リビア
カタールが紛争中の暗礁の統制地帯化宣言。
- ㉟スワジランド
- ㉟新国王、戴冠式。アパルトヘイトとの闘争宣言行う。
- ㉟四月二九日（火）
- ㉟米帝国家テロ
㉟伊のクラクシ首相
「テロリズムが跋扈する限り、地中海に平和なし。されど、西側同盟国は平和解決の道を捨てるべからず」
- ㉟リビア
イラン外相がリビア訪問し、カダ・フィ・大佐と会談。
- ㉟アルジェリア
首相が大統領親書携え、アンカラ入り。
- ㉟四月三十日（水）
- ㉟米帝国家テロ
㉟仏前首相デュマ（社会党）
「テロリズムの根拠を解決せねば、根絶できぬ」
- ㉟シリア
①アサド大統領、西独のゲンシャ外相と、ユーロ会談。
- ㉟リビア
八六年度最大の政府対ゲリラ戦。
- ㉟将校詰所への攻撃。米大使公邸にダイナマイト攻撃。他にも一二カ所で爆弾攻撃。
- ㉟イスラエル
ガザでの「自治」拡大を発表。西岸でも、パレスチナ市町村の「自治」領域をふやす。
- ㉟チエルノブイリ原発事故について、ソ連が発表。帝国主義国、こそつて反ソ宣伝に出る。
- ㉟ヨルダン
ペレスの「ヨルダンとの静かな対話進行」発言に対し、仲介者を通してフセイン国王が「不快の念」をペレスのオフィスに通告。

- ㉟西独の緑の党が、西独内全原発閉鎖
- ㉟四月二九日（木）
- ㉟米帝国家テロ
㉟伊のクラクシ首相
「テロリズムが跋扈する限り、地中海に平和なし。されど、西側同盟国は平和解決の道を捨てるべからず」
- ㉟リビア
カタールが紛争中の暗礁の統制地帯化宣言。
- ㉟スワジランド
- ㉟新国王、戴冠式。アパルトヘイトとの闘争宣言行う。
- ㉟四月二九日（火）
- ㉟米帝国家テロ
㉟伊のクラクシ首相
「テロリズムが跋扈する限り、地中海に平和なし。されど、西側同盟国は平和解決の道を捨てるべからず」
- ㉟リビア
イラン外相がリビア訪問し、カダ・フィ・大佐と会談。
- ㉟アルジェリア
首相が大統領親書携え、アンカラ入り。
- ㉟四月三十日（水）
- ㉟米帝国家テロ
㉟仏前首相デュマ（社会党）
「テロリズムの根拠を解決せねば、根絶できぬ」
- ㉟シリア
①アサド大統領、西独のゲンシャ外相と、ユーロ会談。
- ㉟リビア
八六年度最大の政府対ゲリラ戦。
- ㉟将校詰所への攻撃。米大使公邸にダイナマイト攻撃。他にも一二カ所で爆弾攻撃。
- ㉟イスラエル
ガザでの「自治」拡大を発表。西岸でも、パレスチナ市町村の「自治」領域をふやす。
- ㉟チエルノブイリ原発事故について、ソ連が発表。帝国主義国、こそつて反ソ宣伝に出る。
- ㉟ヨルダン
ペレスの「ヨルダンとの静かな対話進行」発言に対し、仲介者を通してフセイン国王が「不快の念」をペレスのオフィスに通告。

- ㉟西独の緑の党が、西独内全原発閉鎖
- ㉟四月二九日（木）
- ㉟米帝国家テロ
㉟伊のクラクシ首相
「テロリズムが跋扈する限り、地中海に平和なし。されど、西側同盟国は平和解決の道を捨てるべからず」
- ㉟リビア
カタールが紛争中の暗礁の統制地帯化宣言。
- ㉟スワジランド
- ㉟新国王、戴冠式。アパルトヘイトとの闘争宣言行う。
- ㉟四月二九日（火）
- ㉟米帝国家テロ
㉟伊のクラクシ首相
「テロリズムが跋扈する限り、地中海に平和なし。されど、西側同盟国は平和解決の道を捨てるべからず」
- ㉟リビア
イラン外相がリビア訪問し、カダ・フィ・大佐と会談。
- ㉟アルジェリア
首相が大統領親書携え、アンカラ入り。
- ㉟四月三十日（水）
- ㉟米帝国家テロ
㉟仏前首相デュマ（社会党）
「テロリズムの根拠を解決せねば、根絶できぬ」
- ㉟シリア
①アサド大統領、西独のゲンシャ外相と、ユーロ会談。
- ㉟リビア
八六年度最大の政府対ゲリラ戦。
- ㉟将校詰所への攻撃。米大使公邸にダイナマイト攻撃。他にも一二カ所で爆弾攻撃。
- ㉟イスラエル
ガザでの「自治」拡大を発表。西岸でも、パレスチナ市町村の「自治」領域をふやす。
- ㉟チエルノブイリ原発事故について、ソ連が発表。帝国主義国、こそつて反ソ宣伝に出る。
- ㉟ヨルダン
ペレスの「ヨルダンとの静かな対話進行」発言に対し、仲介者を通してフセイン国王が「不快の念」をペレスのオフィスに通告。

- ・イスラエル
- ・チュニジア

① エルサレムで英觀光客の殺された件につき、二〇人を逮捕（アブ・ムサ派を重点的に逮捕したもの）。

② ヘブロン市内のセツルメント建設をめぐり、労働党の抑止策に、リクードが反発。

③ 八七会計年度からの国民保険改悪決定（税制とリンクさせる方式の導入）。

④ 米帝、オーシャン・サファリ86演習開始。八日まで。

リアが関係しているという感触を得てゐる」とラビン。これを機に対シリ・キャジペーン、開始。

- ・ 仏
ムルロワ環礁で、今年二回めの核実験。
- ・ 西独
ゲンシャー外相、フィリピン訪問
- ・ チュニジア
アミン大統領（レバノン）、チュニスへ。レバノン問題をアラブ連盟に介入させるため。
- ・ 五月七日（水）
- ・ 米帝
① 上院で、過去三〇年間最大の米軍再編法「バリ―・ゴールドウォー

- 対シリア・キャンペーン
- 西独で逮捕されたアラブ人二名（ドイツ・アラブ協会事件）、「爆弾は東ベルリンのシリア大使館からもらった」と「自供」。
- ② 英帝外務省、エル・アル事件関連でシリア外交官二名の事情聴取をシリアル大使に要求（外交官特権解除要請）。シリアル大使、拒否。
- チュニス アミン－アブ・イヤド会談。レバノン在住パレスチナ人の旅行、移動ドキュメントの便宜をアミンが約束。
- 五月八日（木）
国連総長あて、サミットのリビア

- 英帝 想より低い。
地方選で、保守党後退。労働党、伸びる。社民・自由連立も伸びる。
• スペイン
国王夫妻、ヨルダンを非公式訪問
- 米帝
シュルツ、アキノ大統領と会談。
「マルコスのハワイ在は迷惑だが、他に行き場所がないから仕方なし」とシュルツ。
- 対シリア・キャンペーン
①英帝、シリア外交官三人追放。
②スペイン
右派の将軍一名をリビアへの機密漏洩で逮捕。リビア総領事（駐マドリッド）追放。

1986年6月30日 第12号 月刊 中東レポート

③ 民主党

② 原子力空母エンタープライズ・リビア沖に到着。

- イスラエル
- 五月三日からの訪米を前に、ラビンが核政策推進強調。「ソ連原発事故があつたからといって、イスラエル内の原発安全性への疑問視、点検要求は、やりすぎ」（一応「左派」のマバーム党議員などから、「原発・核政策を政府が独占しているが、もつと国会で問うべき」とする要求出ていた）。
- スリランカ
- コロンボで、エア・ランカ機爆発二〇人死亡。日本人観光客も含ま

- ②英のサンデー・テレグラフ紙
リビア、シリアが歐州にテロリスト、武器の戦略配置行うとの
中傷記事。
- ③サウジアラビア
エジプトのアル・アハラム紙輸入
禁止（対米偏重政策批判記事出し
たので、ファハド国王が制裁措置）
- ④米帝、ロケット打上げ失敗（SD
I）。八六年度、三回め。無人衛
星。
- GCC
カタール・バーレーン紛争に、G
C C 書記長が調停中。が、進展な
し。

- 韓国改憲要求会。全の側は、労働者・学生デモと警官隊との衝突を口実にしている（三〇〇人以上逮捕）。
- 金大中氏、再び自宅軟禁。
- 台湾
- 台湾航空の貨物機、パイロットが乗つ取り、中国へ亡命。
- アフガニスタン
- ジュネーブで、国連調停下、パキスタンと間接交渉会議。
- カルマル書記長、病気のため、書記長辞任と発表。後任は、ナジビ・ラア氏（出身は、パキスタンとの国境地方）。
- イスラエル
- ① むこう二力年の賃金・物価スライド方式に、ヒスタドルートとイスラエルの側は、労働者・学生デモと警官隊との衝突を口実にしている（三〇〇人以上逮捕）。
- ② 金大中氏、再び自宅軟禁。
- 台湾
- 台湾航空の貨物機、パイロットが乗つ取り、中国へ亡命。
- アフガニスタン
- ジュネーブで、国連調停下、パキスタンと間接交渉会議。
- カルマル書記長、病気のため、書記長辞任と発表。後任は、ナジビ・ラア氏（出身は、パキスタンとの国境地方）。
- イスラエル

⑤ エネルギー相—原発政策変更なしと声明。ただし、「エジプト国境近くに作るので、保安措置をしっかりやる」と、科学・技術相。

- ノルウェー
- 東京サミット
- ① 反サミットで、通勤列車へのサボタージュ闘争。
- ② 経済宣言採択
- 加、伊を加えた七カ国蔵相会議（G7）設置。帝国主義陣営の経済調整機関。
- 対「テロ」キャンペーン

五月三日予定のサミット、延期を発表。
・ 東京サミット
レーガン一行、成田着。二万人の厳戒体制。財務長官、国務長官、竹下蔵相と会談。
・ 米帝

- 英帝 サツチャヤー、訪韓し、全と会談。
- レバノン ベカーのバールベックで、シーア派とシリア軍が対峙。若干の銃撃戦。
- 五月三日（土）
 - 米帝国家テロ・反ソキャンペーン
 - ① ポルトガル EEC外相決議にのつとり、リビア

ベナジール・ブット女史、カラチで初集会。二五万人動員。

五月四日（日）

① 東京サミット

② 迎賓館等サミット会場へ、口ケツト砲攻撃。三件。

③ リビアの関与に認識を深めた」と安倍。

④ 対テロ宣言、リビアを名差しで非難。

④ウルグアイ政府代表団、イスラエル経団連が調印。
③バーミュダ問題
②エダヤ人テロリスト組織(TNT)
三名、釈放。

- ③米のCBSテレビ
"ロンドンのエル・アル爆破事件で、シリアとイスラエルの緊張高まる"キャンペーンを開始。リビアン、ペレスとも"シリアの関与あるようだ。しかし、イスラエルの側から開戦するつもりなし。シリアが戦争をしかけるなら、受け立つ"。
- ④米帝、イスラエルへの緊急援助三億七五〇〇万ドルを決定。
- ⑤アーヴィング・チュニスから帰国。東ベイルートのハーレ空港へ。民族派が、アミン機着陸後、同空港へ砲撃。
- ⑥レバノン、同空港の公式開港は、一週間後の予定。
- ⑦ニカラグア
白軍のコマンダンテ・ゼロ派、CIAの兵糧攻めにあり、分裂。CIAが組織した「反ニカラグア政府統一戦線」に流れる。
⑧イタリア
⑨「イスラムのための呼びかけ」事務所を、リビア資金容疑で捜査。二〇人の北アフリカ人追放決定。
⑩EC外相決議にのっとり、リビア外交団を四分の一に削減するよう、リビア大使館に通告。

• 日帝

• 対「テロ」政策説明のために、特使二名を中東派遣。

五月一〇日(土)

• シリア

- ①ベリ、ダマスカス訪問。カツダム副大統領と会談。
- ②英外交官三名を報復追放。

ウニタ書舗の単行本

資料・中東レポートI (1983年)

重信房子編著 2500円

資料・中東レポートII (1984年)

JRA・重信房子編著 2500円

—激動の地、レバノンの日本人グループによる闘いの分析—

敬白

月刊中東レポート一二号

月刊中東レポート一二号をお届け致します。発刊以来一年

分の発行となりました。これも会員読者の皆様のお蔭と感謝致しております。

これから二年目に入ります。現地の人々も張り切っているようですので、一年目の反省の上に、積み重ねてまいりたいと思います。

どうか二年目も購読御継続下さいまして、応援して下さいますようお願い致します。

六月三〇日

第10号正誤表

頁	段	右からの行数	誤	正
2	1	7	去年	一昨年
5	2	27	「ゲバラ・ガザ隊」	ガザのゲバラ隊
6	1	12	同上	同上
14	4	14	マルワン・ハマディ大臣	マルワン・ハマディ元大臣
15	2	3	同上	同上
16	2	7	マロン派独立議会	マロン派議員無党派ブロック
"	4	24	同上	同上
"	"	"	イスラム議会	イスラム・ラリー(シア派議員ブロック)
18	4	19	(暗)殺計画一周年	(暗)殺未遂弾劾一周年
20	2	17	国交確立へ。	国交再開へ。
21	4	24	「ゲバラ・ガザ隊」	ガザのゲバラ隊
22	3	23	分裂	党大会で、指導部選出をめぐり、混亂。